

令和 6 年度学校評価報告書

北海道教育委員会教育長 様

北海道旭川南高等学校長 印

1 本年度の重点目標

- (1) 授業改善を図り、生徒の意欲を引き出し、確かな学力の向上を図る。
(2) キャリア意識を高め、主体的に科目選択に努め、第一志望の進路実現を図る。
(3) 規範意識を高めるとともに、いじめを許さない「命を大切にする心」の育成を図る。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	教職員アンケートでは、授業の指導方法の工夫改善、生徒の学習意欲と学力向上について35%が不十分とし、保護者アンケートでは26%が不十分であった。生徒アンケートでも「理解しやすい授業」「自ら学び自ら考える力と学力の向上」についてそれぞれ25%が不十分としていた。ICTを活用した授業改善を図り、基礎学力の向上とともに主体的で対話的な深い学びをさらに推進していく必要がある。	学習指導の「自己評価と取組」は、ほぼ妥当、「改善方策」は妥当である。 ・ICTを活用した学習指導を今後も進めていただきたい。
改善方策	(1) ICT活用に係わる計画的な校内研修と校外研修参加を促進し、授業改善を推進する。 (2) 各教科で探究的な学習を中核とし、生徒の学習意欲の向上を図る。 (3) 生徒の学習習慣を定着させるためにClassiやアプリの活用について工夫改善を図る。	
進路指導	進路実現について、教職員アンケートでは概ね十分以上が94%、保護者アンケートでは82%であった。生徒アンケートの意欲向上は83%、「先生方は面談等を通して進路情報や適切なアドバイスを行ってくれる」については90%が概ね十分以上であり、教職員による親身な指導がなされている。理解を得られていない生徒・保護者も一部いるため、学年と進路指導部の連携を強め、指導を充実させていく必要がある。	進路指導の「自己評価と取組」は妥当、「改善方策」はほぼ適切である。 ・キャリア教育と適切な進路指導があつてこそ総合学科。生徒保護者に寄り添った進路指導を継続していただきたい。 ・進路が早くに決定した生徒が卒業まで有意義に過ごしていく指導をお願いしたい。 ・更なる進路情報の提供をお願いしたい。
改善方策	(1) 1,2年次の実力養成講座の在り方、模試対策会を進学講習への変更、3年次進学講習の時間割等について工夫改善を図る。 (2) 進路別説明会（生徒、保護者）が効果的であったため、継続実施し進路意識の向上を図る。 (3) 保護者への情報提供を充実させ、家庭と連携した進路指導を継続していく。	
生徒指導	教職員アンケートでは、「自律性や社会性を身に付け、責任を持って行動できる生徒の育成」が28%、保護者アンケートでは19%が不十分であった。生徒アンケートにおいて、「悩みや困ったことができる」について25%が不十分という結果であった。いじめのない学校づくりについては教職員アンケートで91%、生徒アンケートで90%が概ね十分であったが、保護者アンケートでは70%であり、保護者との協力体制を構築する必要	生徒指導の「自己評価と取組」は、ほぼ妥当、「改善方策」は、ほぼ適切である。 ・学校と保護者の協力関係をより強め、校則について先生方が説明責任を果たせるようお願いしたい。 ・子供を見ていて不安を感じる保護者がいるかもしれない。Classi等を活用した相談しやすい環境づくりを進めていただきたい。

改善方策	(1) いじめ防止基本方針を見直し、いじめ防止対策委員会と生徒指導部・学年の連携を強化し、組織的な取組を継続していく。 (2) 定期的な生徒理解調査を通して情報共有を図るとともに、特別支援委員会を中心に教務部、外部専門機関と連携した組織的な支援体制を強化する。 (3) 生徒会を中心とした取組を推進し、生徒の規範意識を高めていく。	
健康安全指導	健康安全および生命を尊重する指導について概ね十分以上が教職員アンケートで98%以上、保護者アンケートで79%であった。保健安全部を中心に、実効性の高い防災訓練等を実施し、日常より主体的に安全行動ができる態度の育成を目指していく。	健康安全指導の「自己評価と取組」はほぼ妥当、「改善方策」はほぼ適切である。 ・冷暖房について適切な環境づくりを進めていただきたい。
改善方策	(1) 危機管理マニュアルとBCPを見直し、校内研修を通じた教員の指導力向上と生徒の安全行動に対する意識を高めていく。 (2) 熱中症や感染症（新型コロナ、インフルエンザ）対策として、簡易クーラーの活用改善や加湿器の設置を検討し、環境改善を図る。	
キャリア教育 探究的な学習	南高の都市型進学型総合学科の教育活動について、教職員アンケートでは概ね十分以上が89%、保護者アンケートでも83%の評価を得ているが、「不十分～よくわからない」という回答も17%あるため、保護者理解を深める取組が必要である。また、生徒アンケートの「探究的な学習は楽しく、自分の思考力や表現力、コミュニケーション能力が向上したと思う」について、85%が概ね十分以上であったが、一部の生徒では不十分という結果が得られた。	キャリア教育・探究的な学習の「自己評価と取組」はほぼ適切、「改善方策」もほぼ適切である。 ・今後も課題研究の指導に力を入れていただきたい。
改善方策	(1) フィールドスタディ「企業訪問-課題設定-解決策」をグループで行うことは、2年次「課題研究」に効果的な取組であり、継続して実施する。 (2) 課題研究について「個人研究」の他、グループ研究も視野に入れながら協働的な学びを推進し、思考力、表現力、コミュニケーション能力の向上を図る。 (3) 道外視察研修の成果等を活かし、探究的な学習の効果的なプログラムについて全教員で共通認識を深めていく。	
開かれた学校づくり	広報活動について教職員アンケートでは概ね十分以上が89%、保護者アンケートでは、80%であった。PTA活動については、教職員アンケートでは概ね十分以上が95%、保護者アンケートでは78%であった。地域・保護者への情報発信について改善を図る必要がある。	開かれた学校づくりの「自己評価と取組」はほぼ妥当、「改善方策」は、ほぼ適切である。 ・除雪ボランティアに多くの地域住民が感謝している。今後も学校の情報発信と地域とのつながり強めるようお願いしたい。 ・活発なPTA活動が、保護者全体に十分伝わっていない。Classi等で積極的な活動報告をお願いしたい。
改善方策	(1) 学校HP、SNS（Instagram等）を活用した積極的な情報発信の継続、学校案内や学校ポスターの刷新等、広報活動を活性化していく。 (2) 学校見学会や学校説明会の内容を見直し、中学生にとって魅力ある取組を一層推進していくとともに、保護者の参加も促進し本校の教育活動の周知に努めていく。	
公表方法	・学校評議員会、PTAの役員会等での公表及び本校ウェブページでの公開。	